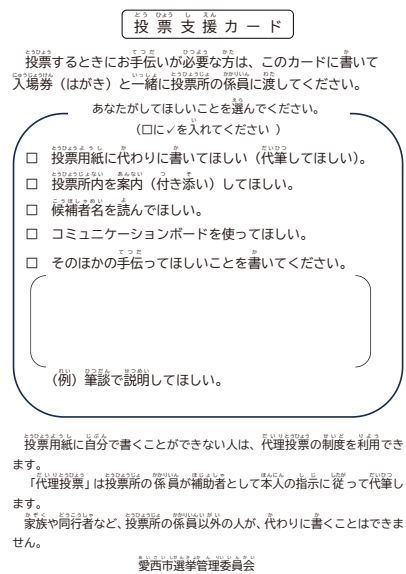


投票支援カード利用 状況について課題は

高松 幸雄議員



安心して投票できる環境づくりを進める
総務部長



▲今回導入された投票支援カード

問 投票支援カードとは高齢者や障がいを抱えた方、また口頭で支援を求めることが困難な方にとって投票しやすい環境を整備することを目的としたものである。希望する支援内容をあらかじめカードに記入し、投票所の係員に提示することで必要な介助をスムーズに受けられる仕組みで、今回の衆議院選挙から本市でも導入されたが投票支援カードの利用実態と今後の課題は。

答 今回の選挙は急な執行で周知期間が短かったため、利用実績は確認されなかった。今後は広報紙やチラシ、ホームページなどで周知を強化し、コミュニケーションボードの活用も含め、誰もが安心して投票できる環境づくりを進めていく。

教育環境の 安全性確保は

られた。これらを踏まえ、令和9年度中の着工を目指し、基本設計・実施設計を進めたい。

問 永和中学校体育館は老朽化が進み、雨漏りや天井コンクリートの剥落により授業・部活動に大きな影響が出ている。教育委員会は建て替えを決定したが検討状況と今後の整備方針は。

答 体育館について既存の場所に建て直す案、別の場所に建て直す案としてグラウンド北側・南側に配置する案があったが、グラウンド南側に配置し洪水の浸水想定を考慮して2階建てとすることに決定した。アリーナ及び防災備蓄倉庫を2階に配置し、地盤面から5メートルに設定した。生徒・教職員アンケートや地域ワークショップでは、空調整備、防災機能、修繕しやすい構造、早期整備を求める意見が多く寄せ

問 近年の夏の猛暑は災害級とも言われ、学校での熱中症対策は必須である。登下校中は炎天下を歩いたりしなければならぬ。最近ではネッククーラーを利用する児童も増えている。朝の登校時は冷えて効果があるが下校時にはぬるくなってしまふ。その対策として、小・中学校へ保冷用冷凍庫設置を提案したが検討状況は。

答 熱中症対策としての保冷用冷凍庫整備は、重要度や緊急性を総合的に勘案し、全小・中学校18校に保冷グッズ用冷凍庫90台を設置して、下校時に冷えたネッククーラーを使用できる環境整備を進める。